

講義コード	515101301	
講義名	障害児保育 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	矢野 善教	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

現在、「インクルーシブ保育」という障害児と健常児が共に生活する保育が主流となりつつある。そこで、保育者には障害の知識や障害児に対する関わり方を学ぶ必要がある。そこで、本科目では、障害の概念から障害種別の理解と支援方法、さらには職員間連携・地域連携・小学校との連携と幅広い知識とかがわり方を習得する。

【授業の方法】

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書とICTを活用する。

②授業形態

1～7回目は講義形式で行い、8回目以降は第14・15回目のポスター発表に向けた取り組みを行う。

③アクティブラーニングの有無

- ・学生によるポスター発表…気になる子の支援計画をまとめてポスター発表を行う。
- ・小テスト…第3～8回は、復習問題4問と予習問題1問を出題する。

④課題に対するフィードバックの方法

- ・採点した小テストを集計後、返却する。
- ・支援計画の添削指導を行う。

授業の到達目標及びテーマ

2007年に特別支援教育が始まり、教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それともなっていて、幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。

保育の現場に出るからは、みなさんが自分自身で、障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって、本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識について学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

本科目の幼児教育科のディプロマ・ポリシーは、【知識・理解】における「1. 諸領域の学問分野における基礎的知識を持っている」、【技能】における「3. 情報や知識を複眼的、論理

的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身に付けている」「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」、【態度・志向性】における「6. 自学自習・自主自立を実践できる」「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」である。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方）
第2回	「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷
第3回	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解
第4回	困難な状況を抱える家族とその支援
第5回	障害児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの課題
第6回	地域の専門機関や関係機関との連携
第7回	多様な支援を必要とする乳幼児、児童及びせいとの把握や支援
第8回	気になる子どもって何？
第9回	気になる子どもの疑似体験
第10回	支援計画の作成と記録及び評価
第11回	支援計画の作成①
第12回	支援計画の作成②／ポスター作成①
第13回	ポスター作成②
第14回	ポスター発表（前半クラス）
第15回	ポスター発表（後半クラス）

授業時間外の学修

予習：30分

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

発表担当班の人は、教科書の内容をレジユメにまとめて発表してください。

復習：15分

授業時に配布したプリントや該当章を読み返し、次回の小テスト対策をしてください

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
○	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
課題解決	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課

能力	もに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	能力で課題を解くことができる	けながら自身の能力で課題を解くことができる	題解決が難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している。
プレゼンテーションの分かりやすさ	課題設定・研究の手順と実際・結果・考察等が、分かりやすくまとめてある。画面がとも見やすい。	課題設定・研究の手順と実際・結果・考察等が、分かりやすくまとめてある。	課題設定・研究の手順と実際等が、教員の支援を基にまとめている。	教員の支援があっても、なかなか自身でまとめをすることができない。
プレゼン内容についての質問等への対応が適切である。	質問の意図を理解し、その答えを論理的に説明できるため、質問者も十分理解ができる。熱心に受け答えをしている。	質問の意図を理解し、その答えを説明でき、質問者も理解ができる。	質問の意図を理解し、何か答えられるが、質問者を十分に理解させるところまではいかない。	質問の意図を理解できず、何も答えられない。
レポート力（レポート内容）	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	40%	
成果発表	50%	支援計画の完成度・ポスター発表の精度
授業への貢献度	10%	
レポート		
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット メール等の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート (議論の場と時間) プレゼンテーション 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用		

教科書

咲間まり子（編著）「特別支援教育・障害児保育入門」建帛社
野呂文之・高橋雅江（監修）、永富大輔・原口英之（編著）「保育者ができる気になる行動を示す幼児への支援：応用行動分析学に基づく実践ガイドブック」学苑社

参考書

適宜紹介します。

SDGsとの関連

- | |
|---|
| <p>3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに</p> |
|---|

特記事項等

- 1) 実務経験のある教員
教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。
- 2) 科目のナンバリング
SUN2402
- 3) オンライン授業の実施方法
Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 220 研究室

月・水・木・金が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-670-3680（直通）

授業用E-mail

yoshinori@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や発表、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 10%（授業態度など）
- ② 発表 20%（プレゼンテーションの際の発表内容）
- ③ 小テスト 30%（小テストの成績）
- ④ 期末テスト 40%（授業内容の理解度評価）

毎回、授業の始めに前回の内容に関する小テストを行います。

小テストの結果も成績評価に含まれます。

必ず、予習・復習して授業に臨んでください。